



都城西ロータリークラブ

Miyakonojo-West Rotary Club

2007年～2008年度 クラブテーマ

明るく・楽しく・元気よく

会長 小田 賢一

幹事 小俵 武



" ROTARY SHARES "

2007-2008年度RI会長

ウィルフリッドJ.ウィルキンソン氏

週報 第1541回 平成19年 9月12日

国際ロータリー第2730地区 都城西ロータリークラブ 創立1976年3月10日 例会：毎週水曜日 例会場：ホテル中山荘 Tel 0986-23-3666
事務局：メインホテルナカムラ4F Tel 0986-25-0834 Fax 0986-25-0618 Mail : rc2730@lily.ocn.ne.jp http://miyakonojo.sakura.ne.jp

点鐘

合唱

我等の生業

ビジター紹介

◎ 都城 岡崎 誠一 外山 勝

◎ 都城北 なし

◎ 都城中央 なし

□会長の時間

小田 賢一

みなさん、こんにちは。

秋本番を迎えました。秋にはさまざまな定冠詞が付きまします。スポーツの秋、実りの秋、収穫の秋、食欲の秋、読書の秋等々…。

RCでも、9月、10月は行事の多い時期です。今月23日は少年野球連盟との清掃奉仕、同じ日に米山奨学会セミナー、岩橋委員長と私が参加します。さらに地区大会や姉妹クラブの御坊南RCへの訪問などの行事もあります。

…RCが活発に活動や交流をする「奉仕の秋」「RCの秋」にしたいものです。

読書の秋にちなんで、本のお話をします。

以前、吉田努さんと話をしていた、野球の話になりました。吉田努さんは皆さんご存じのように野球などされるスポーツマンです。しかし最近では体力の衰えを感じる時があると言っておられました。例えばバッターボックスに立って、以前は打てたボールが打てなくなったりとか…。

その時にふと若い頃に読んだ小説を思い出しました。菊地寛の書いた「形」という小説です。私が読書の面白さを知った小説の1つです。

菊地 寛はご存じのように小説家ですが、「文芸春秋」を創刊したり、親友の名を冠した「芥川賞・直木賞」を創設したことでも有名です。

「形」菊地寛 作(別紙)

…「形」が一人歩きして、中身が伴わなくなってしまった喜劇のような、悲劇のような小説です。「軽はずみに鎧や兜を貸してしまい、死んでしまうなんて、なんてばかな男だろう。」と思うのは喜劇。反対に「…可哀想に」と思うのは悲劇。本当に喜劇と悲劇は紙一重です。

それにしてもさまざまなことを考えさせてくれる内容です。

我々の日常生活でも同じような事があります。平気だった段差や階段をある日、踏み外してケガしたり骨折したりして、実際の体力の限界を感じたりすることがあります。

また体力だけでなく、地位や肩書という「形」が一人歩きして、中身や実力とのギャップが生じたりします。地位や役職などの責任感によって能力が磨かれたり、人間が作られたりする場合の方が多くともおもいますが、ややもすると、落差を感じる時もあります。

年とともに体力は確実に衰えて行きますが、地位や役職、肩書などが上がって行くと共にそれに見合う実力や人間性、人望が伴って行くことが理想でしょう。

ともすれば、中身や内面の鍛練や修行を忘れがちになる時の戒めとして、表面の「形」だけに捕らわれがちになる傾向を戒めながら、精神や品格の向上を心掛けて行きたいと思えます。

長くなりましたが、会長の時間でした。

□幹事報告

小俵 武

- 小林RC……………例会変更 9/19(水)18:00- ガーデンパルク 小林 *観月会
- RI本部…0-列-財団「毎年あなたも100ドルを」
- 地区大会………信任状
- 地区0-列-財団…ハネアケ名簿の送付について
- 都城自衛隊…都城駐屯地開設記念行事のご案内 (小田・小俵・中村七) 10/28(日)10:00-15:00 都城駐屯地

□クラブ報告事項

- *2007-2008 4RC合同会員名簿
- *都城の歴史と文化を知りながら清掃奉仕しよう！ 9/23(日)午前9:00-集合 美術館前 *出欠をご提出ください
- * 御坊南RC姉妹締結更新訪問 11/12.13(月火) 1泊2日
- * 歴代会長会 9/19(水)18:30-中山荘



□出席報告

会員数	64名	
出免数	4名	
出席数	51名	
出席率	87.93%	
前々回修正出席率	8/29	91.52%
前回修正出席率	9/5	84.49%

届出有	草水 外山 鳥集 吉田勉 山浦 福本 岩橋
MU有会員 8/29 理事会	小田 小俵 中村七 吉原 精松 大峯 三坂 鳥集 平川 鎌田博 小坂
9/7 都城	山浦
9/9 職業奉仕	三坂
9/11 北	なし
MU無会員 8/29	吉田勉 岩下 瀬口 串間 盛田 中村静
要MU会員 9/5	串間 吉田勉 上田 中村静 福永直 岡崎 久木野 井福 盛田

□委員会報告



30年 精松 豊治
23年 内藤俊一郎 各氏

新世代 平川委員長
9/23(日) 午前 9:00~10:30
「都城の歴史と文化を知りながら
清掃奉仕しよう！」
集合:都城市役所第2駐車場
少年野球&西高IAC
①城山公園 ②陸軍墓地 ③市民会館

友愛 鎌田 博文委員長
11/12~13 御坊南RC姉妹締結更
新の為訪問します！

□ 本日のプログラム



永野修一郎会員卓話

1. 民事再生法
2. 個人の再生・債務整理
3. 企業の事業継承→機会の均等
結果の均等からの脱却

イ: 相続法上の問題点・遺留分

□: 事業承継税制問題点

* 解決策 等

□SAA報告

川口 恒吉

◎ ニコニコ箱

小田 賢一…永野委員長の卓話ありがとうございました
内藤俊一郎…皆勤賞を頂きありがとうございます
精松 豊治…30年皆勤賞を頂きました。皆様のお陰です

◎ 米山奨学会

川口 恒吉…9/15は十五夜まつりです
福永 忍…米山奨学会へ

◎ 教育振興基金

天水 金作…教育振興基金へ
福永 忍… 同じ

◎ ロータリー財団

徳重 幸男…ロータリー財団へ
天水 金作… 同じ
福永 忍… 同じ

◎ 今後のプログラム

9/19 プログラム担当例会

9/26 クラブ協議会

	9/12	計
ニコニコBOX	5,000	107,000
ゴールドBOX	3,502	33,802
		2
ロータリー財団	34,800	131,800
米山奨学会	20,000	193,000
		0
教育振興基金	15,000	138,000
		0
	*竹と風の学校	24,609

雑誌会報委員会

志摩 誓啓 吉田 勉 鮫島 孝慶 馬渡 秀光
甲斐 克彦 ロータリー事務局 制作

形

菊池寛

せつつ

撰 津 半国の主であった松山新介の侍大将中村新兵衛は、
五畿内中国に聞こえた大豪の士であった。

つつい

そのころ、畿内を分領していた 筒 井、松永、荒木、和田、

やり

別所など大名小名の手の者で、『 鎗 中村』を知らぬ者は、お

しご

そらく一人もなかつただろう。それほど、新兵衛はその 扱 き

え

ほこさき

しんがり

出す三間柄の大身の鎗の 鋒 先 で、さきがけ 殿 の功

名を重ねていた。そのうえ、彼の武者姿は戦場において、水ぎ

わ立ったはなやかさを示していた。火のような

しょうじょうひ

えいきん かぶと

猩 々 緋 の服折を着て、唐冠 纓 金 の 兜 をか

ぶつた彼の姿は、敵味方の間に、輝くばかりのあざやかさをも

っていた。

「ああ猩々緋よ唐冠よ」と敵の雑兵は、新兵衛の鎗先を避けた。味方がくずれ立ったとき、激浪の中に立つ巖のように敵勢をささえている猩々緋の姿は、どれほど味方にとってたのもしいも

あらし

のであったかわからなかった。また 嵐 のように敵陣に殺到するとき、その先頭に輝いている唐冠の兜は、敵にとってどれほどの脅威であるかわからなかった。

はな

こうして鎗中村の猩々緋と唐冠の兜は、戦場の 華 であり

まと

敵に対する脅威であり味方にとっては信頼の 的 であった。

「新兵衛どの、おり入ってお願いがある」と元服してからまだ

さむらい

間もないらしい美男の 士 は、新兵衛の前に手を突いた。

「なにごとじゃ、そなたとわれらの間に、さような辞儀はいらぬぞ。望みというを、はよういうて見い」と育ぐくむような慈顔をもって、新兵衛は相手を見た。

さむらい

その若い 士 は、新兵衛の主君松山新介の側腹の子であった。そして、幼少のころから、新兵衛が守り役として、わが子のようにいつくしみ育ててきたのであった。

ういじん

「ほかのことでもおりない。明日はわれらの 初 陣 じゃほどに、なんぞはなばなしい手柄をしてみたい。ついてはお身さ

か

まの猩々緋と唐冠の兜を借してたもらぬか。あの服折と兜とを着て、敵の眼をおどろかしてみとうござる」

「ハハハハ念もないことじゃ」新兵衛は高らかに笑った。新兵衛は、相手の子供らしい無邪気な功名心をこころよく受け入れることができた。

「が、申しておく、あの服折や兜は、申さば中村新兵衛の形じゃわ。そなたが、あの品々を身に着けるうえは、われらほどのきもたま

肝 魂 を持たいではかなわぬことぞ」と言いながら、新兵衛はまた高らかに笑った。

そのあくる日、摂津平野の一角で、松山勢は、大和の筒井順

しのぎ

慶の兵と 鎬 をけずった。戦いが始まる前いつものように猩々緋の武者が唐冠の兜を朝日に輝かしながら、敵勢を尻目に

こま

かけて、大きく輪乗りをしたかと思うと、 駒 の頭を立てなおして、一気に敵陣に乗り入った。

吹き分けられるように、敵陣の一角が乱れたところを、猩々緋の武者は鎗をつけたかと思うと、早くも三、四人の端武者を、突き伏せて、またゆうゆうと味方の陣へ引き返した。

おどし よろい

その日に限って、黒皮 緘 の 冑 を着て、南蛮鉄の兜

をかぶっていた中村新兵衛は、会心の微笑を含みながら、猩々緋の武者のはなばなしい武者ぶりをながめていた。そして自分の形だけすらこれほどの力をもっているということに、かなり大きい誇りを感じていた。

彼は二番鎗は、自分が合わそうと思ったので、駒を乗り出すと、一文字に敵陣に殺到した。

猩々緋の武者の前には、戦わずして浮き足立った敵陣が、中村新兵衛の前には、ビクともしなかった。そのうえに彼らは猩々緋の『鎗中村』に突きみだされたうらみを、この黒皮緋の武者の上に復讐せんとして、たけり立っていた。

新兵衛は、いつもとは、勝手が違っていることに気がついた。

おじけ

いつもは虎に向かっている羊のような怖気が、敵にあった。

うろた

彼らは狼狽え血迷うところを突き伏せるのに、なんの雑作もなかった。今日は、彼らは戦いをする時のように、勇み立っていた。どの雑兵もどの雑兵も十二分の力を新兵衛に対し発揮した。二、三人突き伏せることさえ容易ではなかった。敵の鎗の鋒先が、ともすれば身をかすった。新兵衛は必死の力を振るった。平素の二倍もの力さえ振るった。が、彼はともすれば突

か

き負けそうになった。手軽に兜や猩々緋を借したことを、後悔するような感じが頭の中をかすめたときであった。敵の突き

ひばら

出した鎗が、緘の裏をかいて彼の脾腹を貫いていた。